

1 アクションプラン3年目の取り組み

令和3年度からスタートしたアクションプランは、令和5年度で3年目の取り組みを終了しました。アクションプランでは、「住民の安心を支える消防力の充実・強化」を基本理念とし、4つの基本目標に基づいた実行計画に取り組んでいます。

令和5年度は28項目の実行計画に取り組み、災害現場での安全管理体制の強化、ドクターカーとの連携など消防力を強化するための取組み、職員に対しては外部機関への研修派遣やハラスメント対策など、組織力の向上及び職員の意識改革を図りました。

年度末に開催した外部委員を含めた進捗管理委員会での総括評価は「計画どおり進んだ」との評価となり、職員全員が共通認識を持って目指す姿に向かって進んでいます。

2 計画期間と総括評価

西暦 (評価年度)	2021 (令和3年度)	2022 (令和4年度)	2023 (令和5年度)	2024 (令和6年度)	2025 (令和7年度)
総括評価	 計画どおり 進んだ	 計画どおり 進んだ	 計画どおり 進んだ		

3 進捗管理の実施

令和5年4月 事業計画表作成
5月 事業計画ヒアリング
9月 中間進捗管理
令和6年2月 年度末進捗管理
2月27日 進捗管理委員会
3月12日 事業発表会

《外部評価委員》

静岡県消防学校宮田副校長

《内部評価委員》

消防長、消防次長、総務課長



アクションプラン2025 進捗管理委員会

4 主な実績

基本目標1 火災・救助活動体制の充実

・安全管理体制の強化

全ての火災出動において検証を行い、活動内容や資機材の必要性などについて検証を行いました。安全管理体制を強化するため試行的に屋内進入用資機材の導入を行った。

・事故防止対策の強化

安全運転マニュアルに「消防車両の誘導方法」の項目を追加し、事故防止の徹底を図りました。

・大規模災害に備えた訓練を実施

大規模災害に備え、消防災害対策本部運営訓練、災害情報記録の取扱い、緊急消防援助隊動態情報システムの取扱いに関する訓練を実施しました。

基本目標2 救急業務の更なる高度化

・普通救命講習の受講環境の見直し

オンラインによる受講申し込みや受講前に動画を視聴することによる講習時間の短縮など、受講者が講習を受けやすくなる環境の整備を実施しました。

・ドクターカーとの連携強化

中東遠総合医療センタードクターカーと合同訓練、検証会を実施し、救急医療体制の強化を図りました。

基本目標3 火災予防対策の推進

・子どもの成長段階に合わせた防火・防災教育

子どもの年齢に合わせた防火・防災教育を行うため、住宅防火KYT資料（パワーポイント、動画）を作成し、動画を交えながら、どのような行為が火災に至ってしまうのか、わかりやすく説明を行うことができました。

・防火対象物の消防法令違反是正を強化

予防課職員を違反是正実務研修（岐阜市消防本部）へ派遣及び違反是正担当者4名を富士五湖消防本部へ派遣し、更なる違反是正体制の強化を図りました。

基本目標4 職員のモチベーションアップ

・若手職員にSR（スタディローテーション）研修を実施

災害現場だけでなく消防業務全体を把握することや将来のキャリア形成支援を目的にSR研修を実施しました。消防予算、入札、契約事務など消防本部業務として行っていることを消防署勤務の若手職員に研修として実施しました。

・ハラスメント対策

ハラスメント事例に対するアンケートを行い、職員の職階ごとに意見分析を行いました。

1 火災・救助活動体制の充実

○取組の評価								
重点項目 1 消防組織・消防体制の充実		R3	R4	R5	R6	R7	自己評価	委員会評価
実行計画 1-1	安全管理体制の強化	40% (50%)	80% (80%)	100% (100%)	継続	継続		
実行計画 1-2	適正な出動体制の確立		20% (20%)	40% (40%)	(70%)	(100%)		
実行計画 1-3	業務内容のスクラップ&ビルド		40% (40%)	80% (70%)	(100%)			
重点項目 2 教育・訓練体制の整備		R3	R4	R5	R6	R7	自己評価	委員会評価
実行計画 2-1	人材育成の強化	15% (20%)	40% (40%)	60% (60%)	(80%)	(100%)		
実行計画 2-2	基本消防戦術の確立	15% (20%)	60% (60%)	80% (100%)	継続	継続		
実行計画 2-3	車両操作技術の向上		30% (20%)	80% (60%)	(100%)			
重点項目 3 外部機関との連携強化		R3	R4	R5	R6	R7	自己評価	委員会評価
実行計画 3-1	大規模災害対応能力の強化	30% (40%)	60% (60%)	80% (80%)	(100%)	継続		
重点項目 4 ICTの活用推進		R3	R4	R5	R6	R7	自己評価	委員会評価
実行計画 4-1	訓練等へのICT利活用				(50%)	(100%)		

※カッコ内は達成度の目標値

自己評価・・・担当所属による達成度の評価

委員会評価・・・進捗管理委員会における評価

◎取組評価基準

	計画以上に進んだ		計画どおり進んだ		計画以下である		全く進んでいない
--	----------	--	----------	--	---------	--	----------

◎委員会評価

「2-3 車両操作技術の向上」は、策定した自動車安全運転マニュアルの基礎知識編の改訂や技術編にの策定など計画以上の進捗となっている。進捗管理委員会及び事業発表会時のヒアリングにより、取組の評価を「計画以上に進んだ」に評価を修正した。



【写真1】磐田市消防本部特別救助隊との合同訓練



【写真2】県西部地区消防本部と
国土交通省の排水ポンプ車取扱訓練

○令和5年度の実績	
重点項目 1 消防組織・消防体制の充実	
【継続】	全ての火災出動において検証を行い、活動内容や資機材の必要性などについて検証を行った。安全管理体制を強化するため試行的に屋内進入用資機材の導入を行った。(1-1、1-2)
【継続】	救助・警防資機材について再確認を行い、今後の管理方法や一覧表の整理を行ったことで事務の軽減が図られた。(1-3)
重点項目 2 教育・訓練体制の整備	
【継続】	消防災害対策本部の運営についての説明、災害情報記録の取扱い、緊急消防援助隊動態情報システムなど職員に対して必要な教育を行った。 近隣消防本部との合同訓練を実施し連携強化を図った。(2-1)【写真1、2】
【継続】	基本消防戦術の確立を進める上で基本概念となる「タンク車・ポンプ車の連携体制」について検討を行った。資料の作成、今後、資料作成、合意形成を行っていく。(2-2)
【継続】	安全委員会からの意見により事故防止対策として、車両誘導方法の項目を追加した。 安全運転のための講習会については、次年度に計画する研修場所や予算についての調査を行った。(2-3)
重点項目 3 外部機関との連携強化	
【拡充】	新庁舎に移転して初めての遠州ふくろいの花火警戒において、花火実行委員会との調整を行い、最適な消防警戒態勢を確立できるよう調整を重ねた。花火大会当日は情報管理室、現地警戒本部、出動隊が連携がとれた運営・活動ができた。(3-1)
重点項目 4 ICTの活用推進	
○令和5年度の進捗に対するコメント（内部委員コメント）	
重点項目 1 消防組織・消防体制の充実	
・災害現場での安全管理体制を強化していくため、出動体制、人員の配置、資機材など様々な角度から検証を行い事業を進めてください。 ・令和3年度に策定した定員管理計画により、これまで救助隊、警防課が増員されています。定年延長の職員や増員など、今後の人員配置の変化にあった最適な出動体制となるよう検討し検証してください。 ・救助警防資器材一覧表の見直しを行い、資機材管理業務については時間の軽減が図られました。時間の短縮はとても重要なことですので、今後も軽微なことでも改善していくよう継続して実施してください。	
重点項目 2 教育・訓練体制の整備	
・法改正により新たな講習が必要となるものについては、業務に支障がないよう速やかに必要な職員に講習を受講させ、職場へ広めてください。 ・7、8月に実施した災害情報記録の取扱訓練で行ったTeamsを活用した情報共有が、能登半島地震派遣時の情報共有ツールとしてとても役立ちました。日頃の訓練が重要であることを改めて感じました。 ・火災出動態勢時の「基本消防戦術」を確立する上で、基本となる5つの「タンク車・ポンプ車の連携体制」を全職員に共有し、組織の合意形成を得よう次年度に進めてください。 ・策定したマニュアルは現役機関員の再教育や職員の自家用車の安全運転にも活かせる内容となっていますので、新規機関員の養成だけでなく、その他教育にも有効に活用できる方法を検討してください。	
重点項目 3 外部機関との連携強化	
・新庁舎に移転し初めての遠州ふくろいの花火警戒において、情報管理室と現地警戒本部が連携を取れた運営ができたと感じています。次年度は今年度の反省を踏まえ、更に対応能力の向上に努めてください。	
重点項目 4 ICTの活用推進	
○令和5年度の進捗に対するコメント（外部委員コメント）	
・警防課は少数精鋭で各取り組みの担当、や署所へのアドバイスを行っており、「目指す姿」に向け、ハードワークをしてくれていると感じます。 作成したマニュアルは徐々に各署の職員に周知され始めたのではないのでしょうか。次のステップとして職員にマニュアルを遵守させるよう、取組を行ってみてください。	

2 救急業務の更なる高度化

○取組の評価

重点項目 1 救急体制の強化		R3	R4	R5	R6	R7	自己評価	委員会評価
実行計画	1 - 1 感染防止対策等の強化							
1 - 1		50% (50%)	80% (80%)	100% (100%)				
実行計画	1 - 2 救急訓練教育体制の充実							
1 - 2			40% (40%)	70% (70%)	(100%)			
重点項目 2 応急救護に関する知識技術の普及		R3	R4	R5	R6	R7	自己評価	委員会評価
実行計画	2 - 1 外部団体と連携した普及啓発							
2 - 1			30% (30%)	60% (60%)	(100%)			
実行計画	2 - 2 子どもたちへの普及啓発							
2 - 2				30% (30%)	(60%)	(100%)		
重点項目 3 医療機関等との連携		R3	R4	R5	R6	R7	自己評価	委員会評価
実行計画	3 - 1 協力体制の充実							
3 - 1				50% (40%)	(70%)	(100%)		

※カッコ内は達成度の目標値

◎取組評価基準

	計画以上に進んだ		計画どおり進んだ		計画以下である		全く進んでいない
--	----------	--	----------	--	---------	--	----------



【写真3】袋井市総合健康センター職員への普通救命講習



【写真4】ドクターカーとの合同訓練

○令和5年度の実績	
重点項目 1 救急体制の強化	
【継続】 感染防止対策のための資機材の取扱い、看護師を招いての救命処置時の感染防止対策など多くの研修会を開催し感染防止の強化に努めた。令和6年度に救急救命北九州研修所で行われる「感染防止対策強化研修」へ派遣するため、予算要求、人選、研修後の展開を検討した。(1-1) 【継続】 救急隊員生涯教育については、階層ごとに救急教育を実施したため、救急活動における不安解消に繋がった。 ドクターカーの事後検証会やシミュレーション訓練を行うことで、医師からの注意事項を共有し、今後の活動のレベルアップに繋がった。(1-2)	
重点項目 2 応急救護に関する知識技術の普及	
【継続】 オンラインによる受講申し込みや受講前に動画を視聴することによる講習時間の短縮など、受講者が講習を受けやすくなる環境の整備を実施した。 袋井市総合健康センター保健予防課職員5名、袋井警察署警察官120名を対象として、eラーニングを取り入れた普通救命講習を開催した。(2-1)【写真3】 【新規】 子ども向けの救命講習についての調査、研究を行った。「子ども」の年齢層を未就学児・小学生と中学生に分け、それぞれの年齢において求めるもの、受講しやすい時間や環境について検討を行った。(2-2)	
重点項目 3 医療機関等との連携	
【新規】 中東遠総合医療センター、公立森町病院、磐田市立総合病院と集団災害発生時の対応について再確認を行った。 中東遠総合医療センター及び掛川市消防本部とドクターカーの合同検証会、合同訓練を実施した。(3-1)【写真4】	
○令和5年度の進捗に対するコメント（内部委員コメント）	
重点項目 1 救急体制の強化	
・感染対策は救急業務において重要であり、感染防止に係わる医療機関での研修や資器材の取り扱い講習を継続して実施してください。 ・救急件数は年々増加し、ドクターカーの運用が開始されるなど、救急業務を実施していく上での環境は年々変化しています。変化に合わせた教育内容や実施方法などについて検討をお願いします。	
重点項目 2 応急救護に関する知識技術の普及	
・外部団体との連携した応急救護の普及啓発として、今年度からeラーニングを取り入れた普通救命講習がスタートしました。受講者の意見を参考としながら、効果的な講習環境を整えてください。 ・未就学児や小学生から大人までバイスタンダーを育成することは重要だと考えます。作成した未就学児から小学生向けの応急救護カリキュラムは実施に向け、学校など関係機関と調整をお願いします。	
重点項目 3 医療機関等との連携	
・病院、保健所、医師会との連携はこれまで同様、相互の理解を深めていってください。なお、令和7年度に運用を開始する指令システム全更新に伴い、中東遠総合医療センター及び森町病院へ導入する救急タブレットを有効に活用できるよう、事業を進めてください。	
○令和5年度の進捗に対するコメント（外部委員コメント）	
・中東遠総合医療センターとの連携が深まってきていると感じます。医療機関との合同研修会や合同訓練を行うことにより、消防の活動を理解してもらう良い機会となると思います。 ・ここ数年、感染症の影響により救命講習などは縮小傾向にあったと思います。今後は、様々な年齢層に対して適切な講習内容を検討してください。	

3 火災予防対策の推進

○取組の評価							
重点項目 1 住宅防火対策の推進		R3	R4	R5	R6	R7	自己評価 委員会評価
実行計画							
1-1	SNSを活用した戦略型火災予防広報の推進	20% (20%)	50% (40%)	80% (60%)	(80%)	(100%)	
1-2	外国人に対する防火・防災知識の育み	20% (20%)	40% (40%)	60% (60%)	(80%)	(100%)	
1-3	子どもの成長段階に合わせた防火・防災教育の展開	20% (20%)	40% (40%)	60% (60%)	(80%)	(100%)	
重点項目 2 査察執行体制の強化		R3	R4	R5	R6	R7	自己評価 委員会評価
実行計画							
2-1	定期査察執行マネジメント体制の構築、査察推進状況の共有化	40% (20%)	40% (40%)	60% (60%)	(80%)	(100%)	
2-2	予防スキル向上を目的とした若手職員育成の取組（資格者章交付）	20% (20%)	40% (40%)	60% (60%)	(80%)	(100%)	
2-3	査察指導基準の公表、統一した行政指導の実現	50% (50%)	70% (80%)	100% (100%)			
重点項目 3 火災原因調査体制の強化		R3	R4	R5	R6	R7	自己評価 委員会評価
実行計画							
3-1	指定火災調査員に対する研修制度及び火災調査技術研修会の実施	20% (20%)	40% (40%)	60% (60%)	(80%)	(100%)	

※カッコ内は達成度の目標値

◎取組評価基準

	計画以上に進んだ		計画どおり進んだ		計画以下である		全く進んでいない
--	----------	--	----------	--	---------	--	----------



【写真5】危険予知トレーニング資料の作成



【写真6】磐田市消防本部との合同予防研修会

○令和5年度の実績	
重点項目 1 住宅防火対策の推進	
【継続】	SNSにおいては定期便、臨時便の発信により、フォロワー数が増加し、効果的であったと感じている。継続実施した防火デザインポスターコンクール、ステッカーの活用など、火災予防戦略会議により、効果的な広報活動を検討し、実施することができた。(1-1)
【新規】	KYTによる住宅防火意識の向上のため、KYTイラスト資料を業者への業務委託にて作成した。NITE（製品評価技術基盤機構）から機器の取扱いの不備などにより、出火する動画を提供していただいた。この動画とKYT画像を組み合わせ、わかりやすい広報ができるデータを作成した。(1-3)【写真5】
重点項目 2 査察執行体制の強化	
【継続】	査察規程に基づき約600件の定期査察を執行し、改善報告書提出率は98%であった。令和5年度の違反は正数33件の内、18件が6か月以内の早期改善に至った。違反是正の強化のため違反是正実務研修（岐阜市消防本部）へ1名、富士五湖消防本部に違反是正担当者4名を派遣した。(2-1)
【継続】	階層別に求められるスキルを修得するため、消防副士長1年目研修として、重大違反対象物、公表制度、危険物規制の講義を実施、消防副士長2年目研修として予防課の立入検査に同行し、査察スキルの向上に努めた。予防課受託研修を実施し、予防担当者のレベルアップを図るとともに予防課業務を把握してもらうよう努めた。(2-2)
重点項目 3 火災原因調査体制の強化	
【継続】	磐田市消防本部と合同で予防関係研修会を実施し、各署の職員の火災調査技術の向上が見られた。新任火災調査員を対象に、実際の火災現場において原因調査を行った。実践を交えることにより効果的な教育とすることができた。(3-1)【写真6】
○令和5年度の進捗に対するコメント（内部委員コメント）	
重点項目 1 住宅防火対策の推進	
・SNSを活用した広報は、消防庁の広報施策テーマから季節や管内の実情に応じた「定期便」を毎月発信し、社会的影響の大きい火災や野焼きの拡大による火災などが連続して発生した際は、「臨時便」として即時情報発信するなど、今後も戦略的な広報活動を推進してください。	
・幼児に対する防火・防災教育からスタートし、今年度は小・中学生に対する教育を進めるなど順調に子供の年代に応じた教育体制の構築が進んでいます。KYTを軸とした教育は「こんなことが火事につながる」ということを幼児のうちから学んでいくことで、火災の発生要因を知り、排除することができる高い防火・防災意識をもった大人に育っていきと思います。継続可能な効果的で効率的な教育体制の構築を進めてください。	
重点項目 2 査察執行体制の強化	
・査察規程に基づく査察期間により確実に実施し、法令違反については改善まで指導を続けるスタイルが定着してきています。今後も違反是正先進地での研修を実施するなどし、職員のスキルアップを図り査察執行体制の強化に努めてください。	
・消防用設備等の技術基準を作成し公開まで完了しました。これまでの担当者主体になりがちな指導から、統一的で開かれた予防業務の執行につながると思います。作成した基準を職員へ周知するとともに、適正な運用等への対応を継続してください。	
重点項目 3 火災原因調査体制の強化	
・磐田市消防本部との合同研修会は、2つの消防本部から持ち寄った複数の事例を学べるため、火災調査員の経験不足を補う有効な方法と考えます。今後も継続して開催できるよう調整をしてください。	
○令和5年度の進捗に対するコメント（外部委員コメント）	
・情報発信はターゲットを絞って行うことで、広報効果が高まってきます。また、広報活動には自治会、民生委員、一般企業などと連携して行うことで更に効率が上がりますので、検討してみてください。	
・査察行政は攻めの姿勢が見られます。違反対象物には絶対に是正させるという意識の統一が伺えるため、今後も継続して取り組んでください。	
・磐田消防との火災原因調査合同研修会については、火災現場での見識が広がる良い取り組みだと感じました。	

4 職員のモチベーションアップ

袋井消防本部アクションプラン2025
令和5年度取組結果・評価シート

○取組の評価								
重点項目 1 研修によるモチベーションアップ		R3	R4	R5	R6	R7	自己評価	委員会評価
実行計画 1-1	外部講師による研修会の実施	20% (20%)	40% (40%)	70% (60%)	(80%)	(100%)		
実行計画 1-2	外部研修機関への積極的な派遣	20% (20%)	40% (40%)	60% (60%)	(80%)	(100%)		
実行計画 1-3	職場内研修制度の整備	50% (50%)	100% (100%)	継続	継続	継続		
重点項目 2 人事制度によるモチベーションアップ		R3	R4	R5	R6	R7	自己評価	委員会評価
実行計画 2-1	職員定員管理計画の定期見直し	100% (100%)		継続	継続	継続		
実行計画 2-2	外部への出向制度の検討				(100%)			
重点項目 3 モチベーションアップのためのしくみ整備		R3	R4	R5	R6	R7	自己評価	委員会評価
実行計画 3-1	ハラスメント対策の充実	15% (20%)	40% (40%)	60% (60%)	(80%)	(100%)		
実行計画 3-2	消防広報業務の拡充	20% (20%)	40% (40%)	60% (60%)	(80%)	(100%)		
実行計画 3-3	業務スクラップ制度の整備	50% (50%)	80% (80%)	100% (100%)	継続	継続		
重点項目 4 管理監督者の育成		R3	R4	R5	R6	R7	自己評価	委員会評価
実行計画 4-1	外部講師による消防本部内研修の実施	20% (20%)	40% (40%)	60% (60%)	(80%)	(100%)		
実行計画 4-2	外部機関での研修受講	60% (50%)	100% (100%)	100% 継続	継続	継続		
実行計画 4-3	人事評価制度の効果的な運用			40% (40%)	(70%)	(100%)		

※カッコ内は達成度の目標値

◎取組評価基準

	計画以上に進んだ		計画どおり進んだ		計画以下である		全く進んでいない
--	----------	--	----------	--	---------	--	----------



【写真7】外部講師によるメンタルヘルス研修



【写真8】警防課職員によるSR研修

○令和5年度の実績	
重点項目 1 研修によるモチベーションアップ	
【継続】	研修内容は地域支援係及び総務課で調整会議を行い「メンタルヘルス研修」を実施した。講師は元消防職員の鎌田修広氏を招き、消防目線のメンタルヘルス及びハラスメントについて有意義な講義を実施することができた。(1-1)【写真7】
【新規】	消防副士長、消防士長昇格者を対象にSR研修を実施した。総務課は消防予算、業務内容についての説明、警防課は入札、訓練等の企画、災害対策本部の運営などについて研修を行った。若手職員に消防本部業務を理解してもらい、将来のキャリア形成支援になる教育を実施することができた。(1-3)【写真8】
重点項目 2 人事制度によるモチベーションアップ	
重点項目 3 モチベーションアップのためのしくみ整備	
【新規】	ハラスメント事例に対するアンケートを実施し、係員、主任・主査、主任主査以上の3段階に分け、事例に対する意見の分析を行った。このようなハラスメント事例について考えることや意見を交換を行うことで、ハラスメントに対する認識は向上していくものと考えている。(3-1)
重点項目 4 管理監督者の育成	
【継続】	袋井市が企画したマインドワーク研修に消防の課長級4名が参加した。マインドワーク研修は潜在意識の仕組み、コミュニケーション、人間関係など管理職として様々な効果が期待できるため、次年度以降も受講できるよう調整を行った。(4-1)
○令和5年度の進捗に対するコメント（内部委員コメント）	
重点項目 1 研修によるモチベーションアップ	
・メンタルヘルス研修は講師の選定や内容ともに今の袋井消防に適切であり、有意義な研修であったと思います。来年度以降も研修後のアンケート結果を踏まえて研修内容を検討し、講師を選定してください。 ・今年度、新たに静岡県自治研修所での研修に参加し、受講者からは良い評価を得ています。今年度、受講した「説明力向上講座」、「ファシリテーション講座」は、職員への研修アンケートでも今後、受講を希望する研修として、要望が多かったことから、外部講師による職員全体研修も視野に入れ、検討してください。 ・今年度から副士長、士長昇格者に対するSR研修がスタートしました。初年度であり内容を探りながらの研修となりましたが、今年度参加した職員の意見を参考とし、研修内容をブラッシュアップしてください。	
重点項目 2 人事制度によるモチベーションアップ	
重点項目 3 モチベーションアップのためのしくみ整備	
・SNS等を充実させるなど、どちらかと言えば若者向きな広報手段から、今年度は袋井市主催の高齢者スマートフォン教室に出向くなど高齢者への広報に目を向け事業を展開してくれました。今後も幅広い年代への広報をお願いします。 ・スクラップは10を0にすることだけでなく、今回の提案のように複数の事業を1つにまとめることも業務のスリム化（業務改善）に繋がるものと考えます。今後は提案があれば所属長会議等で随時協議してください。	
重点項目 4 管理監督者の育成	
・市町村アカデミーや市町村振興協会での研修は、主に行政職員を対象とした研修です。消防行政の幹部職員として、消防業務だけに限らず、部下とのコミュニケーション能力や指導能力を身に付けていくことが重要だと考えます。今後も継続してください。 ・職員との面談は業績評価、人事評価、自己申告書の面談など、年間5回程度実施しています。評価者や評価補助者がこの面談を通して、職員に対し適切なアドバイスや個々にあった指導することは管理監督者のマネジメント能力向上に繋がっているため、今後も人事評価研修などによりスキルアップを図ってください。	
○令和5年度の進捗に対するコメント（外部委員コメント）	
・研修に対する考え方は消防本部の組織の風土、予算などにより様々です。 - 若手職員は職場内での研修以外にも、自主勉強会に参加している職員が多くいます。これらで学んできたことを実践したいため、組織の考えと違うことをやりだすことには懸念をしています。組織として若手職員のモチベーションを保ち、組織との考えのずれを解消していくため、意見を聞く場所も必要だと感じています。 - 職場で話しやすい上司、話しにくい上司はどこかで差があります。消防活動の現場では厳しく対処する必要があるが、それ以外は監督者が目線を落とし話しやすい環境づくりを心掛けてください。	